

花野たより

NPO法人阿蘇花野協会会報誌
VOL. 25号 2012年4月30日発行

2012. 春号

活動報告

野焼きしました。

2012年3月20日

放置人工林を伐採しました。

2011年11~12月



[活動報告]

野焼き

(3月20日)

平成23年度の野焼きは、平成24年3月20日(春分の日)、参加者40余名で無事に実施いたしました。参加者の皆さん、お疲れさまでした。

当初予定していた日曜日、3月11日、18日はいずれも天候不順で延期となり、実施が心配されたのですが、20日は薄曇りを保ち、午後には陽も差し込んでくれました。

今回、野焼きをした面積は約9ヘクタール(9万平米)。東京ドームの建築面積が4.7ヘクタールですからほぼ2倍の面積ということになります。

報道などでご存知の方も多いと思いますが、昨年につづき、今年も他団体の野焼きによる死傷事故が起きています。亡くなられた方のご冥福をお祈りすると同時に、二度とこのようなことが起きないように、私たちが万全を尽くしてまいりたいと思います。

今後とも、会員の皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



草原の復活をめざして放置人工林を伐採

レポート 阿蘇花野協会 理事 瀬井純雄

阿蘇花野協会では、放置された人工林を伐採して草原に戻す取り組みを進めています。

阿蘇花野協会が管理している約10haのトラスト地のうちおよそ1haが人工林で、樹齢40～50年のスギやヒノキなど約1200本が植えられていました。

平成23年11月12日に伐採が開始され、次々に木が切り倒されていきました。伐採には、約1ヶ月ほどかかりましたが、伐採後は専用重機を使って、杉の木が同じ長さに切りそろえられ搬出されていきました。そして、12月11日には、最後の1本が切り倒されて、伐採は無事終了しました。

その後、伐採跡地にはたくさんの杉の枝や倒木が残っていたため、地元の林業家の方に燃やしていただいたり、薪用として引き取っていただき、ごちゃごちゃとしていた伐採跡地がきれいになりました。また、3月20日には、周囲の放棄地も野焼きを行い、灌木も除去しました。今後は、定期的に野焼きをしたり、草刈り・草集めなどを繰り返して、およそ50年前の草原環境に戻していく予定です。

なお、昨春より熊本大学理学部の藤井紀行准教授のもとで、学生が植生や植物相調査を行っていますので、放置人工林伐採の前後の違いがデータとして明確になる予定です。その他、去年は定例の阿蘇野の花観察会の際に、コドラート(調査用の方形区)を20カ所ほど設けて観察しています。計3回の観察会を実施しましたので、会員の皆様も伐採前の様子をしっかりと確認できたところです。

これまででも、伐採跡地にハナシノブやサクラソウが突然現れるということがあったと聞いていますが、伐採したトラスト地にもいろんな植物が再生する可能性があると思われます。今年の春は伐採直後であまり変化はないと考えられますが、来年、再来年と定例の阿蘇野の花観察会を通じて、会員みんなですっかり観察をしていきたいと思いをします。



放置人工林・放棄地等の状況推移

放置人工林の伐採によって、風景は一変しました。数年後、多彩な花が咲く草原へと変貌することを願ってやみません。

北側から

北東側から

南東側から

伐採前(2011年5月5日)



伐採後(2012年3月4日)



野焼き後(2012年4月1日)



阿蘇花野協会は、次の団体からの寄付・助成金を受け、活動しています。



財団法人

自然保護助成基金

pro natura
Foundation - Japan



社団法人 日本ナショナルトラスト協会

The Association of
National Trusts in Japan

セブン-イレブンみどりの基金

一般財団法人 セブン-イレブン記念財団



公益社団法人

日本フラワーデザイナー協会



三井物産株式会社

三井物産環境基金

発行



NPO法人

阿蘇花野協会

〒862-0912 熊本市錦ヶ丘3番15号 TEL&FAX 050-6620-8306

野焼きが終わり、今年も阿蘇に春がやって来ました。

草が萌え、花々が草原を彩りはじめました。これから夏に向かい、阿蘇の花野は緑を増してゆきます。

k.mori@airs.ne.jp(広報担当: 森)